

新河岸川流域水循環マスタープランの検討に向けた動向

【新河岸川流域水循環マスタープラン検討の経緯】

- ・新河岸川流域では、都市化の拡大に伴い、洪水の増加などの治水の問題や、生態系などの水環境の問題が指摘されるようになり、流域単位で健全な水循環系を構築していく必要性が高まっています。

【新河岸川流域水循環マスタープランの目指していること】

- ・市民・学識者・行政が一体となって、新河岸川流域の目指すべき将来像を明確にしたうえで、河川や流域において、設定する将来像を達成できるような取組み体系の構築を目指します。

【今年度の検討状況】

・第1回市民懇談会の開催

9月27日（火）に流域の方々からの意見を集めるための場として、市民懇談会が開催されました。市民のみなさまにご参加いただき、水循環マスタープラン策定の経緯の説明と、流域の特徴と課題について意見交換が行われました。



市民懇談会のようす

・第2回検討委員会

10月4日（火）に市民代表・学識者・行政で構成される検討委員会が開催されました。流域の総合的な計画を策定するにあたって、流域の特徴と課題について議論され、今後の検討の方向性について話し合われました。



検討委員会のようす

・現地視察会の開催

11月13日（日）に、市民部会と学識者・行政を対象に現地視察会を開催しました。午後から現地を視察しながら、各支川で流域の特徴が異なることを感じていました。視察会の最後には、意見交換会を行い、市民・学識者・行政の三者で流域の将来像に関する意識を共有しました。



現地視察会のようす

事務局だより

第3回連絡会が開催されました

1月19日（木）に第3回新河岸川流域川づくり連絡会が開催されました。第3回では、2月に開催予定の「第12回川でつながる発表会」の交流会企画や現地見学会のコースについて協議しました。

また、勉強会では、第2回連絡に引き続き「流域誌に関するワークショップ」を行い、参加者の間で川に関して印象に残っていることについて発表しました。



第3回連絡会のようす

川づくり連絡会に参加してみませんか？

新河岸川流域川づくり連絡会は、原則第2火曜日または第2金曜日で年4回程度開催します。参加希望の方は、下記連絡先までお問い合わせください。（開催場所はお問い合わせ時にお知らせします。）

しんぶん「里川」掲載情報を大募集します！

各流域や地域での活動報告やイベント情報を募集しています。身近な情報などをお手紙またはFAX・メールにて下記連絡先までお寄せ下さい。

■ 連絡先

新河岸川流域川づくり連絡会 事務局
（国土交通省関東地方整備局 荒川下流河川事務所 調査課内）
〒115-0042 東京都北区志茂5-41-1
TEL 03-3902-3220 FAX 03-3902-2346
URL <http://www.ktr.mlit.go.jp/arage/>

THE SHINGASHI BASIN NEWS

新河岸川流域しんぶん

里川 SATO-GAWA

VOL. 82

発行 新河岸川流域川づくり連絡会（荒川下流河川事務所 調査課内）
住所 東京都北区志茂5-41-1 TEL 03-3902-3220 FAX 03-3902-2346
発行日 平成29年（2017）3月21日



切り絵 毛利将範

目次

- P2～3 第12回川でつながる発表会開催報告
- P4 新河岸川流域水循環マスタープランの動向
- P5 特集：都会にオアシス発見？
白子湧水群と白子宿の歴史を巡ろう！！

寒さもようやく衰えはじめ、徐々に過ごしやす
い季節になってきました。春の陽気に誘われて、
外でお散歩などはいかがでしょうか。
今号では2月に和光市立第三小学校で開催し
た第12回川でつながる発表会の開催報告を掲載
します。連載では昨年からの検討が始まった新河岸
川流域水循環マスタープランの動向をお伝えしま
す。特集では、「都会にオアシス発見？白子湧水群
と白子宿の歴史を巡ろう！！」と題して、第12回川
でつながる発表会の現地見学会で巡った地点を
紹介します。

第 12 回川でつながる発表会の開催報告！！

2月12日(日)に和光市立第三小学校で開催された「川でつながる発表会」は今回で12回目となります。
各参加団体が行った新河岸川流域の川や自然に関する観察結果や研究成果の発表は、今年も力作ぞろいで、来場者は熱心に耳を傾けていました

■当日プログラム

時 間		内 容	
10:15	受付		
10:25	開会挨拶	午前の部(現地見学会)開会に先立ち、荒川下流河川事務所調査課長より「発表会が川に関する色々なことを考えるきっかけになれば良いと思います。本日は一日よろしく願いいたします。」という挨拶がありました。	
10:30	現地見学会	白子川と流域の水環境を良くする会の方による案内のもと、調節池、神社、湧水地等、白子川における総合治水対策・水循環の歴史に関する現地見学会を行いました。県の方より総合治水対策、市の方より市民緑地の概要について説明がありました。	
13:00	挨拶	午後の部(発表会・交流会)の開会に先立ち、会場校の和光市立第三小学校校長より、第三小学校の成り立ちと子どもたちの発表をとおして、川について共に考える良い機会となれば嬉しいとの挨拶がありました。	
	発表(前半)コメント質問	発表会(前半)は自由学園高等科より「自由学園に生息するヌマエビ」、川越市立福原中学校より「不老川はきれいかな?」、狭山市立御狩場小学校より「とび出せ!御狩場探検隊パートII」の発表がありました。	
14:00	発表(後半)コメント質問	発表会(後半)は和光市立第三小学校より「5年理科『流れる水のはたらき』の学習を通して」、和光市立第五小学校より「白子川の水について、メダカについて」、法政大学水文地理学研究室より新河岸川流域を対象とした水質に関する研究、早稲田大学理工学部より地下水涵養と自然生態系の関係に関する発表がありました。	
15:00	交流会	クイズラリー・パネルセッション 今回は12回目の発表会で、新河岸川流域川づくり連絡会事務局では、これまでの11回の発表会をふりかえる写真展を実施しました。また会場内には、流域学校や川づくり団体による取り組みをまとめた力作ぞろいのパネル展示がありました。さらに、参加いただいた方々に水循環・総合治水について理解していただくため、事務局による「洪水防災に関する学習」「雨水浸透実験」のブースが設けられました。また、法政大学水文地理学研究室による「正しい水質調査の方法」や水との関わりの歴史を繋ぐ企画として「流域誌をつくろう!」を実施し、多くの方にご参加いただき、賑わっておりました。	
15:30		クイズ答え合わせ/表彰状授与/総括 荒川下流河川事務所長より、各発表校の代表者へ表彰状が授与されました。表彰状授与の際は、少々緊張気味の顔つきも受け取り後はみんなとても満足そうでした。最後に、新河岸川水系水環境連絡会より、「流域で活動しているみなさんが継続的に活動し、つながっていくことが大切です。」という挨拶がありました。	
16:00	閉会	恒例の記念撮影は、学校や世代を越えてつながる一体感を感じさせる一コマでした。発表会にご参加・ご協力いただいたみなさま、どうもありがとうございました。	
	記念撮影		

1 自由学園高等科 …… 自由学園の池に生息するヌマエビ

自由学園からは、日々の活動の様子や自由学園校内の池に生息するヌマエビの調査結果について発表がありました。自由学園内の6つの池でヌマエビが確認されました。ヌマエビを調べた結果、2つの池にだけ在来種が生息し、残りの池に生息するのは外来種で、池によって種類が違うこともわかりました。



2 川越市立福原中学校 …… 不老川はきれいかな?

川越市立福原中学校からは、不老川の水のきれいさを調べた結果について発表がありました。調査1では、不老川、新河岸川、風布川のCOD値を調査、調査2では、生活排水が不老川をどれくらい汚すのかを調べ、調査3では、浄化装置を作成し、浄化前後でCOD値の変化を測定しました。



3 狭山市立御狩場小学校 …… とび出せ!! 御狩場探検隊パートII

狭山市立御狩場小学校からは、不老川の環境について発表がありました。最初に現地調査に行きました。現地調査結果をもとに、研究を実施することにしました。研究テーマは(1)魚について(2)プランクトン(3)川全体について(4)雑木林について(5)ごみについての5つでした。



4 和光市立第三小学校 …… 5年理科「流れる水のはたらき」の学習を通して

和光市立第三小学校からは、小学校で川についてどういった学習をしているかに関する発表がありました。この学習では、地面を流れる水や川の様子を観察し、流れる水の働きの違いを調べ、土地の変化との関係について考えることを目標としています。具体的な学習手順は、①流水の動きを予測、②実験計画を立てる、③実験、④発表といった形式で行いました。



5 和光市立第五小学校 …… 白子川の水について、メダカについて

和光市立第五小学校からは、白子川の水やメダカについて調べた結果とそれらにまつわるクイズが発表されました。1班目はメダカのみについて、2班目は白子川の水について、3班目は川の水をきれいにする方法についての発表をしました。



6 法政大学水文地理学研究室 …… 身近な水環境一斉調査の水質分析結果から見た新河岸川流域地域特性(5)

法政大学水文地理学研究室からは、新河岸川の水環境や2016年の調査結果について発表がありました。当研究室では、水のサンプルを提供して頂き、分析を行い、分析項目毎に分布図を作成しました。調査結果の違いの主たる原因について考察を実施しました。調査を継続したことで水質の地域特性や経年変化がある程度明確になりました。



7 早稲田大学理工学部 …… 林・池・川・ホテル

早稲田大学理工学部からは、早稲田大学の保全湿地で行った調査結果について発表がありました。早稲田大学保全湿地では、77の準絶滅危惧種が確認され、林床植生調査も行いました。保全湿地では雨の89%が一度地下水として蓄えられ、ダムのような働きをしていることがわかりました。



都会にオアシス発見？ 白子湧水群と白子宿の歴史を巡ろう！！



今号では、和光市にある湧き水スポットが集まっている湧水群と白子宿をテーマとして、総合治水対策や水循環再生などの役割を担っている場所を紹介します。

総合治水対策とは、その土地に住んでいる人たちと協力して、適正な量の水を地中にしみこませたり一時的に貯えたりすることでできるような土地利用や施設整備を行うことをいいます。

水循環再生とは、海が熱せられ、雲ができて、雨が降り、川を流れ、人が利用し、また川を流れ海に戻るという一連の流れが健全な状態に戻ることをいいます。



⑤ 湧く湧くパーク(向山調節池)



① 熊野神社



鎮守の森としての歴史のある神社です。神社西側を高低差約15mの斜面林が囲み、その下でいくつか湧き水が湧いている場所があります。その一つは、神社裏の池の中に湧き、池の水は清流寺不動の滝となって落ちていて滝修行で使われています。明治時代には湧き水の量が更に多かったので、日本で最初の魚の養殖※を始めました場所でもあります。となりの不動院にある「開運洞窟巡り」もイチオシです。

※養殖：魚を食べることを目的として育てること。

② 富澤湧水



和光市の代表的な湧水群です。周辺のがけは緑を守っていく場所(特別保全緑地※)に指定されています。良質で豊かな水量(和光市民の使う水の約5%にあたる量)があります。また、地層から染み出す湧き水を観察でき、湧き水の仕組みを知ることができる重要な場所となっています。

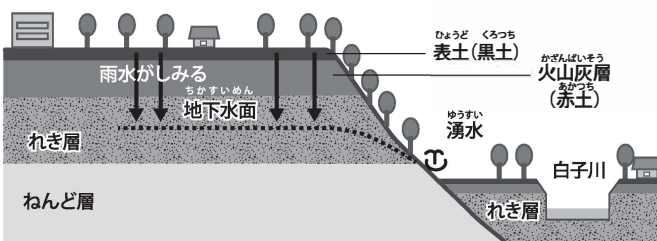
※特別保全緑地：都市における良好な自然的環境となる緑地であり、建築行為など一定の行為の制限などにより保全しています。

歴史



●湧き水の仕組み

標高の高い土地に降った雨水が、地中にしみて水を通さないねんど層の上にたまって地下水面ができます。標高が低い土地では地下水面が地上に出ており、そこから地下水面にたまった水が湧き出ています。和光市は低地にあるため、このような場所が多くみられます。



③ 大坂ふれあいの森



水循環



④ 白子橋



白子2丁目にある橋です。白子ゆかりの詩人「清水かつら」の作詞した「靴が鳴る」の歌詞が刻まれた碑があります。江戸時代には白子川を越えて「白子宿」に向かうために、多くの人が利用した橋でした。白子橋からは白子川に流れ込む湧き水を観察でき、白子川が湧き水で成り立っている川であることが感じることができます。

市街地において貴重な動植物が生息する数少ない緑地です。この緑地を守るために、和光市が土地所有者から土地を借り、市民団体と協力して管理しています。また、白子湧水群のひとつとして数えられ、湧き水の流れにより削られた地形を持ち、地層を見ることができます。崖の下には小さな井戸があり、近くには小さな湧き水があります。